

只見川右岸大川入沢支流より烏帽子山

小沼 充範

■山行年月日:2020年11月15日
■メンバー:小沼 充範
■コースタイム:只見線越川駅東にある神社 9:10~大川入沢左岸支流出合 9:50~稜線鞍部 11:25~烏帽子山頂上 12:00~送電線 14:30~吸沢林道 15:00~出発地点 15:25

以前、ブナの原生林があるため烏帽子山周辺の林道開発に対し反対運動が起きたことがある。それ以来、ブナの原生林が残る烏帽子山が気になっていた。

只見線越川駅の大川入沢を挟んで北西にある神社に車を止め9時10分出発。大川入沢右岸の用水路上を歩いて行く。沢の対岸では林道工事が行われている。途中、人足作業をしている地元の人達に出会う。何処へ行くのかと聞かれ、烏帽子山へ行くと答え、一人で大丈夫なのかと言われた。

右岸の山道をたどる。大川入沢はナメの発達する沢であり、沢床の地質が布沢の森の大滝沢に似ている。道は沢を渡って左岸に移り、再び沢を渡って右岸に戻る。

9時50分、対岸に烏帽子山へつきあげる大きな枝沢を見つける。出合いの蔓等の藪は昨今の霜が降る寒さのため沈んでいる。夏は沢に猛烈な藪が被さり入渓する気持ちになれないだろう。小さな

流れをたどり2m滝を右から越える。奥の二俣となり右俣は稜線633m東側へ突き上げる沢である。烏帽子山へ上がる左俣に入る。途中、ブナの森の恵みをたくさんいただく。水量が少なくなり、沢の上部は紅葉で色づくブナの原生林が広がり雰囲気の良い場所である。

雪樁の藪を掻き分けて登ると烏帽子山手前の鞍部である、11時25分。稜線上には立派なブナの大木があり、優美な裾野をもつ新雪の浅草岳、守門岳、貉ヶ森山を眺めることができる。立ち枯れの木にはムキタケがびっしり生えている。急登を終え、松の木の中を進むと三角点を確認することができた、12時山頂着。見上げると紺碧の青空が広がっている。木々の間から御神楽岳、霧来沢上部の笠倉山、吸沢と大川入沢上流にある白沢山が見える。残雪期、白沢山へ登ったとき、山頂近くに林道が付いているのを思い出した。先ほどの浅草岳の見えるブナ林で休憩する。

13時10分、下山開始。帰路は三角点576mの北西にある送電線めざし、忠実に稜線をたどる。650mピークを越えて行くと、立ち枯れの木にブナの恵みがびっしり付いている。ザックが重くなっているし、採取に時間もかかるので、どうしようかと考えた。結局、時間をかけて採ることとし、頭上にあり、手に届かな

いものはあきらめた。踏跡は不明瞭となり細かなブッシュがうるさくなる。11月にしては日差しがとても暑く、汗をかきながら進む。

14時30分、送電線の下にたどり着く。鉄塔のある場所は展望が良く、只見川、越川集落を見渡すことができる。大川入沢へ下る道があるかと探したが見つからず、送電線の点検道を吸沢へ下ることにする。吸沢林道、15時着。林道を歩いて国道252号線に出る。

15時25分 出発地にたどり着く。越川の集落が夕陽に染まり、日曜の午後の静けさが漂う。

予想した通り、烏帽子山には美しいブナの原生林が残っている。白沢山頂上付



烏帽子山から見る守門岳

近には林道が付いており、工事中の大川入沢左岸の林道を白沢山へ延ばすのだろうか。貴重なブナの原生林があり、無用で管理のできない林道は造ってほしくないものである。

